



議会だより

第23号

みなべ

平成 22 年 11 月 1 日
発行 みなべ町議会
編集 議会広報特別委員会
〒645-0002 和歌山県みなべ町芝742
TEL 0739-72-1334
FAX 0739-72-1335



9月定例会

高城小中合同運動会

平成21年度決算の認定 P2~3

補正予算等の議案審議 P4~5

一般質問に5人が登壇 P6~10

常任委員会活動報告 P12~13

平成21年度決算報告

〔一般会計総額〕

歳入

103億9886万3千円

歳出

95億9591万4千円

平成21年4月1日から平成22年3月31日までの、みなべ町一般会計及び各特別会計の歳入歳出決算について、副町長や会計管理者の同席のもと、8名の議員で構成する決算審査特別委員会が審査が行われました。

執行部からは、教育長や各課長と担当職員の出席を求め、決算書及び主要施策成果報告書などの資料に基づき、それぞれの事業の実施状況や、国から交付された、地域活性化経済危機対策臨時交付金・公共投資臨時交付金・きめ細やかな臨時交付金による事業などの説明を受けました。

委員会からは、事業実施による効果、景気低迷による農業収入などの減収や政権交代による影響、慢性化と懸念されている町税や各使用料金などの未収金の徴収対策改善などを質疑し、執行部からの回答がありました。

書類審査及び現地確認をしたあと、委員会で採決を行った結果、決算については「認定する」と決定しました。

この結果、9月17日の本会議で、委員会の委員長より、決算審査報告が行われ、採決を行った結果、平成21年度一般会計及び9項目の特別会計の決算については、「全会一致で認定する」ことが決定しました。

決算審査特別委員会の構成

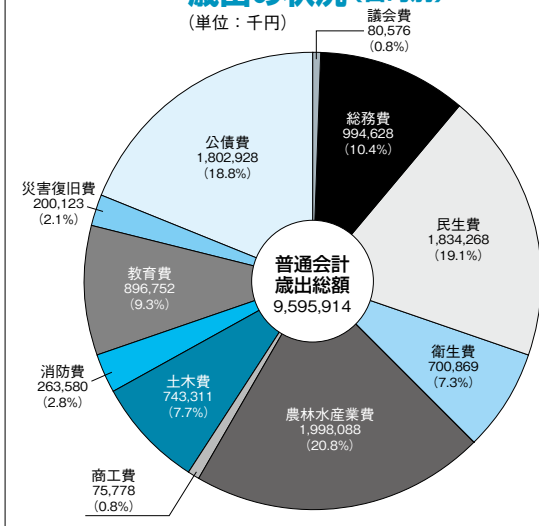


委員長 原田 覚
委員 岡 和雄
委員 寺本 文雄
委員 下村 勤
委員 田中 昭彦
委員 山中 邦夫
副委員長 楠本 誠二

(議席順)

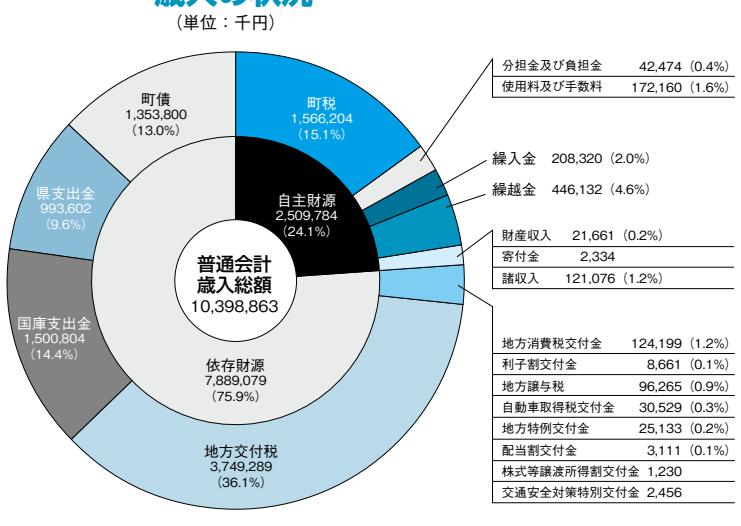
歳出の状況(目的別)

(単位：千円)



歳入の状況

(単位：千円)



決算審査報告

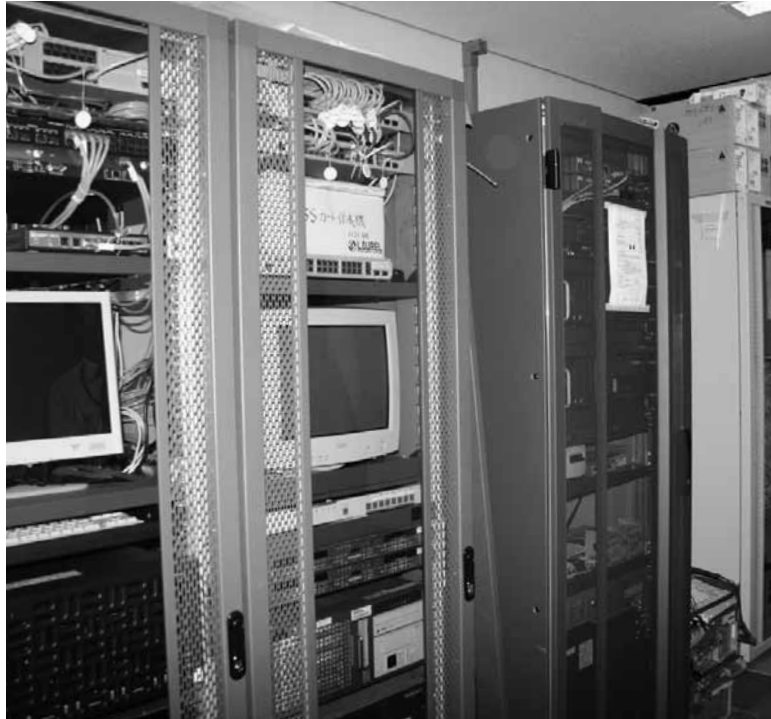
委員長報告では、当局に対して次のような指摘や要望をしました。(抜粋)

総務課

システムプログラム委託料や、電算機器及びシステムプログラム保守料が、年々増えているが、全てを集約して契約すれば、金額の削減につながるのではないか、検討を求めました。

税務課

前年と比較して、町民税や固定資産税、軽自動車税の徴収率が下がっているが、町の主な自主財源でもあるので、徴収率のアップに努めるよう求めました。



コンピューター室



ゴミ袋

住民環境課

ごみ袋の価格や材質に、不満の声が出始めているようですが、材質については、確認中とのこと。不法投棄対策については、今後も、監視カメラを有効に利用するように要望しました。

産業課

梅調味廃液による地域エネルギービジネスについては、現在は計画段階であるようですが、費用対効果なども含めて、十分検討を重ねるよう求めました。

建設課

住宅使用料の未収金については、徴収率のアップを求めました。

決算まとめ

決算審査は、例年どおりの書類審査と現地調査を加えて、3日間の日程で審査を実施しました。

過去の審査で指摘があった、一般会計での予算流用や不用品については、各課において、補正予算などで対応された結果、流用件数や金額は改善されつつありますが、不用品の件数や金額は多く見受けられました。また、多額の繰越金については、担当課の説明で納得したものの、当初予算計上時には、今後は、さらに入念に精査するように要望しました。

財政については、事業などに要する起債のなかで、町が独自に負担を要する金額もあるので、全職員が意識し、予算計上するように求めました。

今後、どのような状況下にあっても、一つ一つの目標を、町長と職員が一丸となり、町全体へ目を配り、意識し、行動することで、少しずつ実を結ぶ結果となります。明るく豊かなまちづくりに向け、より一層の行財政健全化と適正化に努められるように要望しました。

また、昨年の集中豪雨や台風による、崖崩れや土砂崩れなどの災害が多く発生しているが、今後は、危険な箇所から優先的に工事するように要望しました。

上下水道課

農業集落排水や公共下水道の未加入者への、繋ぎ込みについては、更なる啓発とともに、水道使用料などの未収金についても、徴収率アップに努めるよう求めました。



浄化センター工事現場

補正予算などの 議案審議

第3回定例会は、9月6日（月）から17日（金）までの12日間の会期で開会されました。

この定例会では、平成21年度一般会計と特別会計9件の歳入歳出決算の認定案と、平成22年度各会計の補正予算など議案13件、承認2件、報告1件が上程されました。補正予算などの議案13件の質疑の内容を報告します。

失業者にかかる国民健康保険税の軽減措置

Q 国民健康保険税条例の一部改正により、軽減措置の対象なる失業者とは。

A 雇用保険に加入していた人が、倒産や解雇による離職あるいは、雇止めなどによる離職で、離職時の年齢が65歳未満で、さらに平成21年3月31日以降に離職した人です。

町営住宅改修

Q 3カ年計画で改修予定の町営住宅の場所は。

A 平成22年度は、井之台団地住宅の19戸と猪野西部団地の14戸です。

平成23年度は、猪野西部団

地の残り54戸です。それから、平成24年度は、猪野東部団地の32戸を計画しています。

井之台住宅地区 改良住宅建替

Q 現在建設されている住宅3棟の裏側を急いで整備すれば、それだけで、入居が可能になるのではない

A 入居に際する検討委員会の中でも、色々な要望があります。これも踏まえて、十分に検討していきたいと思えます。

Q A・B・C棟は、すでに完成しているが、これから半年ぐらい、窓の閉閉をしないと、畳などが傷んでくるのでは。

A 窓の隙間をきれいにし、建物の中に、除湿剤を置いています。週に何度か現場へ見に行き、注意しながら様子を見ています。

Q 当初予算で、工事請負費が、1億5,982万2千円、その中に設備工事費は含まれているが、外構工事も含まれているのか。

A その中には当然、この建築本体、機械設備、電気設備、それから外構工事も入っています。

Q 4階建住宅の跡地に、ゼロ歳児から受け入れられる保育所は。

A 跡地については、現在検討中です。ゼロ歳児保育については、上南部保育所に部屋を設けています。

改良住宅の跡地の利用



猪野西部団地



井之台住宅



検診車

前立腺ガン

Q 前立腺ガン検診の対象年齢は。

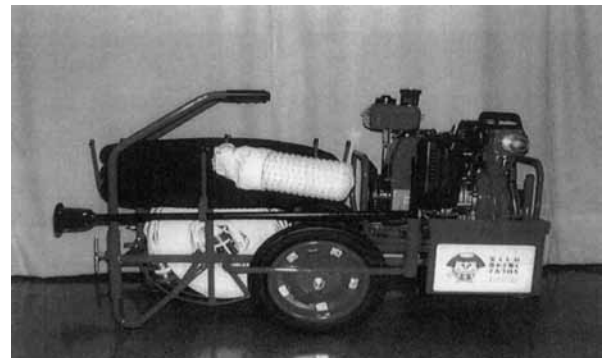
A 40歳以上が対象で、ミニドックで実施したく、検診中です。



小目津公園

小目津公園の排水について

Q 公園の排水の水たまりから悪臭が発生しているのに、EM菌でも使って、水をきれいにすべきでは、以前、臭いがしていた時に、悪臭の元と思われる所をきれいにしました。



可搬式消火ポンプ

Q 可搬式消火ポンプが予算計上されているが、今後、婦人防火クラブにより、維持管理をされるのか。

A 小型の可搬式ポンプで水圧も低く、婦人防火クラブ員による消火活動も容易であることから、管理をはじめ管理体制の向上も図っていきたい。



可搬式消火ポンプ

寄付金の活用 (図書費)

Q 教育の寄付金120万円の内、100万円は積立金、20万円は図書費ですが、その図書費の使い方は。

A 寄付者の趣旨にのっとり、人権に関する図書購入に当って、残りは積み立てておく必要時に取り崩して活用したく思っています。



町立図書館「ゆめよみ館」

一般質問

一般質問は3月9日に8人の議員が行いました。(質問者から提出された原稿とおり掲載しています)



田中昭彦 議員

安全で安心して暮らせる町づくり



安全で安心して暮らせるわが町

質問

最近のマスコミで100歳以上の人が、帳簿上では生存となっていて、所在不明者であることが全国的に相対数になることが判明し、特に都会地では、近所付き合いや人間関係が希薄になった現れと思われま

す。その一方、都会地の行政上の不手際も明らかになってい町長は、施策方針に、安全で安全な町づくりを目指すことありますが、わが町も人口が減少し、また核家族化も進んで、人間の絆の希薄さが目につくようになってきました。安全で安全な町づくりの施

町長

策を聞きます。みなへ町には、100歳以上の所在不明者はおりません。

安全で安全な町づくりのため、様々な施策を行ってまいります。主なものとしては、緊急通報システムや、災害時の要支援登録制度です。

また、各地域の74名の方の協力による地域見守り協力員制度で、安否確認を行っていきます。

更に、外出支援として、デ

救急車の出動要請について

質問

日高広域消防署管内で、みなへ町の救急車出動件数が、一番多く、人口1000人当たりでもトップです。

全国的に、『酒に酔って気分が悪い』『淋しいので話し相手に』『蛇が出てきたので駆除してほしい』等々、救急車の出動要請を、間違った理由で呼ぶ人が多いと聞きます。

わが町でも、救急車の緊急性について、町民の方々の啓蒙が必要では。

町長

救急車の利用方法については、とっさの時には、冷静な判断ができなくなると思っていますので、平常時に認識を深めて頂くためにも、9月号の広報に掲載してお知らせしています。

また、日高広域消防署管内の救急車の台数には、限りがあります。適切な利用をお願いして、町内会や自主防災組織を通じてPRしてまいります。



山中邦夫 議員

国保の「広域化」について

質問

国民健康保険の「広域化」というのは、その運営を市町村単位から都道府県単位に、広域化するという問題です。

民主党政権が、先の通常国会で、国民健康保険法を改定し、「広域化」する制度改定を打ち出しました。これに反応して、大阪府では府知事を先頭に会議が開かれています。この国民健康保険の「広



保健福祉課

域化」について、和歌山県内の動きはどうですか。また、町長の考えについても伺います。

町長

8月6日に開かれた県町村長会で、国民健康保険の「広域化」で、新たな負担が生じないような配慮されたいという要望を、県知事に提出しています。

10月22日に、県下市町村長の会合がありますので、県知

事から、その返事があると思っています。

今後、県町村会の一員として、また県の国民健康保険連合会の理事として、支援についての要望をしてみたいです。私としては、広域化を行うとすれば、国で、一本化すれば良いのではないかと考えています。

質問

4年前から、1件当たり30万円以上の医療費は、その支払いを県の国民健康保険連合会で行っています。各市町村が、負担金

を出して、基金をつくり、支払っています。

みなべ町の負担がする拠出金として、受け取る交付金を見ると、次の表のようになっています。

この表のように、みなべ町の場合、毎年4千万以上の持ち出しになっています。

「広域化」されますと、全ての医療費が、この仕組みで支払いされますから、拠出金と交付金の差は、さらに拡がります。

国民健康保険の「広域化」は、このような問題があることを、はっきり言うべきだと思います。

町長

今、資料を出して質問されましたが、そのとおりでございます。

県の国民健康保険の理事として、自分の町のことを言いくいなく、という思いをしなから、会議に臨んでいます。

しかし、みなべ町独自で、できるものではないので、国の制度に従って、やらざるを得ないかと。

国民健康保険税につきましては、倍以上になると思っています。

一本化せざるを得ないのであれば、国が一本化するべきではないかと、申したい。

保健財政共同安定化事業

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
拠出金	2億1,653万円	2億3,369万円	2億3,174万円
交付金	1億6,754万円	1億8,951万円	1億8,583万円
持ち出し	4,899万円	4,413万円	4,590万円

梅産業発展に 取り組む町の姿勢



楠本誠二 議員

質問

梅産業全体の安定的発展に向けて、積極的に、今後も取り組む町の姿勢と、景気停滞の今、町の農業・産業の発展の施策は。

町長

梅産業全体の安定的な発展に向けて、今後も取り組む姿勢ということですが、町の産業の柱の1つである梅について、今後取り組んでまいりたい、この気持ちには、何ら変わりはありません。

そこで、昨年少し出ました在庫問題等の話もありましたので、それに対応するため、県と地元市町村・JA・加工産業・生産者を含めた団体の中で、うめ需給・販売対策会議というものを立ち上げて、豊年の年、不作の年にもあわてないように、今から準備を進めていこうと言う、会を立ち上げています。

いま現在の状況等は、マスコミ・新聞等で報道されていますように、熱中症・夏バテ対策、それから6月1日には、インフルエンザに効くという部分、これらはテレビで放映され

たわけなんですけれども、月別の梅干購入量を見てみると、売れ行きは伸びてきて、6月から7月の2ヶ月平均だと前年に比べて、4割強アップになっています。

しかし、業界の方々から聞いてみますと、よく売れている商品は、B級品・C級品であり、A級品はそんなに売れていない。それが農家の所得に反映しているのかということですが、昨年在庫も少なく、本年産に切り替わる時期に、少し価格に反映されるのではと考えています。

生ごみ処理機の購入に補助した件数について、平成21年度は9件、本年8月中旬で26件ですが、目標105件まで急増しますか。

質問

生ごみ処理機の購入補助制度の利用等ですが、ごみの減量化については、分別を含めまして、皆さま方にご協力をお願いしているところですが、

町長

その中で、生ごみ対策として、ごみ処理機の購入に補助をして、減量を進めていこうということ、区長会等の際にもお願いしているところで、現在まで補助を出している台数については、一般家庭用で606件、事業所用で5件、あわせて611件の利用をいただいています。

購入件数が伸びない要因については、使っている方にどう

生ごみ処理機の購入補助について



いう要望があるのかということ、意見を聞いてみたいと思います。

それから、乾燥したあとの部分につきましては、農家であれば畑へと、一般家庭では家庭菜園や、プランターで花を作られている方は、プランターへと利用することができるとも思いますけれども、ごみ処理機が置けない、利用できない方、完全にアパート暮らしをされている方については、非常に使い勝手の悪いものだと思います。

今後、メーカーと相談して、色々な機会があれば、PRをしていきたい。そうすることで、ごみを減量して、今の焼却場の延命も図れますし、リサイクルできるものはリサイクルに回すことを、進めて行きたいと思





寺本文雄 議員

梅のセーフガードについて No.2

質問

前回の町長答弁では、肅々と各市町と話し合い、取り扱いたいとしますと言われましたが、どこまで進んでいるのでしょうか。私の調べでは、セーフガードが発動できる状態かと思えます。

財務省関税局調べで、平成21年度中国産梅干輸入数量は約21・1トンで金額は約20億円、中国産の梅干調製品の輸入数量は約76トンで金額は約25億円、日本国内の梅干商品の原料約半分を、中国産梅干で占めています。また、中国産梅干の取引価



中国産の梅

格を見てみますと、平成19年度10kg当たり価格1,596円、平成20年度10kg当たり価格1,240円、平成21年度10kg当たり価格980円で、年々安くなっている状況です。平成22年度10kg当たり価格は、値上がりするかも知れないという情報もあるようですが、定かな情報ではありません。そのため、みな産の梅干の需要が減り、値段が暴落するということになりつつあります。町当局の、国や県から資料を集めて、調べる姿勢が見えませんが。

町長

セーフガードの件は、第2回定例議会的一般質問でもありました。まず、県の担当課に相談をさせていただき、県は国に、産地の状況等についての協議をさせていただいています。

セーフガード発動要件は、輸入の急増により、国内産業に重大な損害がある場合ということ、5年間で、どれだけ伸びたかという数字的なものになります。

最近の過去5年間の状況では、現時点でのセーフガード適用は、無理であるとの報告を受けています。

しかし、梅農家の経営は大変厳しい状況でありますので、輸入状況等を注視することも、県や梅産地関係者で組織する「つめ需給・販売対策会議」で協議を進め、結果につまましては、いずれ機会を見て、お知らせできるかと思えます。

梅農家への所得補償について

質問

旧村は梅の村で、全国1位の農業所得で、所得税を納めていました。また、昔は1万5千円で取引されていた梅干も、去年は4千円まで落ち込んだため、赤字所得になる農家が増えると思われまます。

現政権のマニフェストでは、農家への所得補償政策を打ち出していますが、柑橘類・バラ科・さくら属に類する「梅」は含まれていません。町の、梅農家への取り組み努力は。

町長 農業者戸別所得補償制度についてですが、平成22年度から実施して

います。

戸別所得補償制度は、水田地帯を中心となっており、米・麦・大豆・てん菜などが対象となっています。

和歌山県の農産物の柱でもある果樹も大変厳しい経営状況にあるため、和歌山農政事務所や和歌山水田農業推進協議会が、国に果樹も対象作物となるように要望していたと考えています。

今後は、町も関係機関と連携をして、果樹も含めて所得補償制度に入れていたけるように、要望していきたいと考えています。

地上デジタル放送について



中井重雄 議員

質問

来年7月の地上デジタル放送への移行に向け、円滑な電波受信移行をするための質問をします。

もともと、地上デジタル放送化に移行して欲しいという国民の声は、なかったと思いますが、国がより豊かな放送サービスの実現とか、電波の有効利用とか言っていて、国民に押しつけたと思います。

そこで、その地上デジタル放送の受信について、住民が負担しなくてはならないことは、今利用しているアナログ



テレビを地上デジタルテレビに買いかえるのか、地上デジタル用受信チューナーを取り付けなければならないために、新たな負担増になります。

生活弱者支援では、生活保護世帯やNHK受信料金の免除世帯については、地上デジタル用受信チューナーの現物支給を行うと言っていますが、具体的に、みなべ町では、どれぐらいの世帯がいるのか、それ以外の高齢者世帯や障がい者世帯等への支援は、どうするのか。

それから以前に、火災警報器の取り付けでは、町の負担で、196箇所の高齢世帯に無料取付けを行いました。今回はどうするのか、町の考えを、お聞かせください。

町長

国は、地上デジタル放送受信については、放送事業者と電波を受信する者で対応することを、基本にしているんだという話です。

ただし、高齢単身者や高齢世帯が463人もいるというなかで、町といたしましては、色々な機会に、地区民生委員さんや協力員さん、介護ホー

ムヘルパーの方々と、家庭を回られる際に、相談させていただくのも、1つの方法かなとは思いますが、町が昨年、制度を設けました火災警報器とは、若干異なるのではないかとということです。

色々な人の意見を聞かせていただいで、必要な時期が来た時点で、相談させていただきたいと思えます。

質問

基本的には、テレビ受信者負担でやっていくということですね。

町長 基本的には、テレビ受信者が負担するところですので、進めてまいり



受信用チューナー

ます。

ただ、その電波受信切り替え時期に、テレビが映らないというこのないよう、一生懸命、努力していきたいと思えます。

みなべ町立 岩代小学校校舎竣工

耐震度調査の結果、築55年経過している岩代小学校が、今回改築されました。平成21年11月に着工し、平成22年8月に完成、10月2日（土）に、竣工式が執り行われました。当初、学校関係者や地元の人達による「岩代小学校校舎改築検討委員会」を設置し、あらゆる角度から検討を重ねた結果できた案を基に、完成に至ったものです。事業費は7億2千万円で、財源の内訳は、国・県の補助金等2億2千万円、合併特例債等の起債は4億7千万円、一般財源からは2千7百万円でした。紀州材をふんだんに使った新校舎で、木の香りとぬくもりに満ちた教室での学びに、子供達は喜びでいっぱいです。



テープカット



新校舎全景



図書室

総務文教常任委員会

10月14(木)、15日(金)の2日間にわたり、鳥取県八頭郡智頭町と岡山県美作市へ訪問して、行財政改革の取り組み内容と成果、今後の計画について視察研修してきました。

智頭町

智頭町は、平成20年9月に、住民の意見を予算に反映させる「百人委員会」を発足させ、町政に参加したいという142名の全員を委員に任命し、住民自治のまちづくりとして注目を集めた町であります。百人委員会は、「行財政改革」「商工・観光」「農業」「生活・環境」「福祉」「教育・文化」の6部会あり、月2回程度の部会活動には担当課長・課長補佐が説明に加わり、3月の議会までに各部



智頭町 私提案箱



会が企画提案し、一冊の報告書を町長に提出しました。2年目も同様な方法で行っていますが、百人委員会の提言を幅広く検討するため、町長の諮問機関として、平成21年11月に有識者による行財政改革審議会を設置しました。職員では出てこない発想も多くあり、職員は刺激を受け、勉強し、資質向上に結び付くとのことでした。そして3年目の22年度は、この2年間に企画提案された町民の思いを、企画実行の年にしたいと説明がありました。

美作市

美作市は平成17年3月31日に、6町村が合併して誕生した市であり、基幹産業である農林業のほか、産業団地や、美作三湯のひとつ湯郷温泉などの観光に期待をしているが、合併前の旧町村時からの厳しい財政運営は、合併後も引き続き小規模自治体への締め付けが厳しくなるであろうと、財政に対する危機感を持っているとの説明がありました。大きく7つの推進事項を掲げているが、取り組みの主な



美作市役所

成果として、土地開発公社経営改善の効果が大きく、7社の企業誘致がおこなわれています。また、総合支所の宿直の廃止、7出張所のうち6出張所の廃止など、合併当初700名いた職員を10年間で550名に削減をするそうです。しかし、観光施設・第三セクターの収支状況が良くならず、民間委託やいろいろな努力をしているが、効果が出てこないとの説明を受けました。庁舎内の清掃、公園の草刈りなど、自分たちが出来ることは極力自分たちで行うという職員の意識も強く、わが町も見習わなければと感じました。

産業建設常任委員会

8月25日(水)、26日(木)の2日間にわたり、梅酒の原料となる青梅の需要拡大と現状を調査するため、中野BC(株)本社梅酒工場と、チョーヤ梅酒(株)伊賀上野工場の現地調査を行いました。委員からの質問などをまとめた一部を、報告します。

8月25日(水)
中野BC(株)本社



会社の説明

この会社は、梅酒と清酒を大きな柱として製造販売されています。製造部は1課と2課に分かれており、梅酒は2課で担当しています。

それ以外の製造販売商品は、梅の果汁、紀州の赤本という名前で健康補助食品梅肉エキス、青ミカンを粉末化したアトピタン、化粧品として清酒を混ぜた化粧水などを製造販売しています。

梅酒は、ホワイトリカーや焼酎で漬け込むことで、梅の品質の良さ・香り・味が際立

つてくることを基本に、製造されており。今後は、日本酒で漬ける方法についても研究開発していくとのことでありました。

梅酒の原料は、南高梅限定であり、古城梅や白加賀梅で漬けた梅酒は、世間一般で出回っていますが、今のところは南高梅一本であるとのこと。

4年前から、梅酒の製造量は業界全般が一気に伸び、今後年間約120%ぐらいの伸びを予想されています。

基本的な考え方として、和歌山県産原料に、こだわりを持っていきたいとのことでありました。



工場内

8月26日(木)
チョーヤ梅酒(株)
伊賀上野工場

この会社は、梅酒とかりん酒等の果実リキユール・ブランドー・薬味酒・ワイン・梅干・菓子・飲料などの製造販売をされており。通常、梅酒が出来上がるまでには、2年が必要であり、2年前の梅酒と1年前の梅酒をブレンドしながら使っています。

現在、この工場にある梅酒タンクは、直径4m、高さ8mの大きさのものが、120基あり、梅は40トン入っているとのことでした。

みなべの梅とのかわりについては、50年ほど続いているとのことでした。

チョーヤが使う梅の70%は、和歌山産の南高梅や古城梅であり、残りの20~30%は他府県の梅であるが、梅酒に使える品種もあるとのこと。

梅酒で最も伸び出したのは、昭和50年以後であり、毎年右肩上がりです。



出来上がった製品

今後も、産地にこだわりながら梅酒を製造し続けていき、世界一の梅酒を目指し、頑張っていきたい。また、今47カ国へ輸出しておりますが、中国の梅酒メーカーにより価格が崩れているところもありますが、今後も世界の梅酒の値が崩れないような取り組みをし、それらに動じない、良い商品を製造していきたいとのことでありました。

両社に対し、今後も「みなべ産の青梅」を使っていただきたい旨を、申し出しました。

サークル紹介

陽だまり(手話)



毎週水曜日、午後7時30分から南部公民館で、聴覚障害者の方と、子供さんも一緒に、日常会話ができるように指文字や手話の単語・数字を学習しています。
また、他の手話サークルとも交流しています

- 発足** 昭和50年4月
- 現在** 代表者 形部 雅代
会員数 10名
- 活動**

民舞さざなみの会



第1、第3月曜日午後7時30分から、芝崎会館 又はみなべ公民館で練習しています。紀南舞踊まつり、町芸能まつり、文協フェスティバル弁慶まつり、老人ホーム慰問、町内の歌謡教室の出演、敬老会など。

- 発足** 平成12年
- 現在** 代表者 小松 保子
指導者 浜口 定実
会員数 12名
- 活動**

あとがき

今年の日本の夏は、異常な猛暑に見舞われ、大変でしたね。
このままでは今後、より異常な猛暑に、豪雨・暴風・日照り等が、この日本に、広くは地球上で、頻繁に起こり……。やがて、人々は「異常が異常として認識しなくなる。」そう言う恐れのないよう、一人一人が地球環境に気を配って行きたいものですね。
町政へのご意見等をお待ちしています。
(森)

- 一言(民舞さざなみの会)** 5月、3教室の第1回おさらい会をしました。
中学校3年生2人も上手で、とにかくみんな仲が良く、教え合っている、明るい教室です。
- 一言(陽だまり)** 手話を使い、楽しくゲームをしたり、通訳の練習をしています。
「むずかしい」と思わず、興味のある方は、気軽に参加してください。